

ESTメールマガジン 第 147 号(2018.10.25)
発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

□主な内容

【第 38 回 EST 創発セミナー in 京都〔近畿〕の参加者募集中！】

11 月 22 日(木)に京都府宮津市で第 38 回 EST 創発セミナーを開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu57.html>

【第 10 回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！】

前号掲載の EST 交通環境大賞の応募を受付中です。〔応募締切:2019 年 1 月 7 日〕

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2018.html>

【第 11 回アジア EST 地域フォーラムの結果について】

<http://www.env.go.jp/press/106058.html>

【エコドライブシンポジウムを開催します！】

エコモ財団は、エコドライブ活動コンクールの表彰式を兼ねたシンポジウムを 11 月 28 日(水)に東京で開催します。皆様からのご参加をお待ちしています。

http://www.ecodrive.jp/data/ecodrive_sympo18.pdf

目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 147 回)

- 「第 8 回 地域の交通環境対策推進者養成研修会 in 福井」に参加して

【福井大学学術研究院工学系部門 准教授 川本義海】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 147 回)

- 「『交通まちづくり』によるすみやすさナンバーワンのまち高槻」をめざして

【高槻市産業環境部 環境保全課長 長谷川哲郎】

3. ニュース／トピック

- 第 10 回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！【EST 普及推進委員会】

- 第 11 回アジア EST 地域フォーラムの結果について【環境省】

- エコ通勤メールマガジンのバックナンバーを公開【エコ通勤優良事業所認証制度事務局】

- 自治体向けのエコ通勤啓発リーフレットを公開【エコ通勤優良事業所認証制度事務局】

- エコレールマークの認定商品として 6 件、認定企業として 4 社を新たに認定することが決定【国土交通省】

- 新しいモビリティサービスの構築に向けた共同出資会社を設立【ソフトバンク、トヨタ自動車】
- 沿線の地域交通課題解決に向けた新しい交通システム 10月29日(月)から「電動小型低速車」の実証実験を開始します【京浜急行電鉄】
- 水素活用による、鉄道と自動車のモビリティ連携の検討を開始【トヨタ自動車、JR 東日本】
- 心と体を元気にするクルマづくりを目指した、電動化とコネクティビティの技術戦略を公表【マツダ】
- 電気自動車を活用した「V2G 実証プロジェクト」を開始【東北電力、三井物産、三菱地所】
- コンテナ増強による紙製品輸送のモーダルシフト推進【北越コーポレーション】
- 燃料電池トラックの技術開発・貨物輸送の実証【福岡市、東京アールアンドデー、ピュース、天神地区共同輸送】
- 大気汚染防止のプロジェクトに1億3,000万ユーロを拠出【ドイツ】
- 1人乗りマイカー通勤が1割減少し都心回帰が実現【シアトル市】

4. イベント情報

- 第38回 EST 創発セミナーin 京都〔近畿〕【2018/11/22】
- 「エンジョイ エコドライブ おかやま」～新型試乗車でドイツの森までエコドライブ体験～【2018/10/27】
- くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2018【2018/10/27-28】
- 平成30年度交通環境セミナー【2018/11/9】
- 地域公共交通シンポジウム in 徳島 ～みんなでつくる持続可能な公共交通～【2018/11/12】
- 平成30年度エコドライブシンポジウム【2018/11/28】
- エコプロダクツ 2018【2018/12/6-8】
- 第16回 ITS シンポジウム 2018【2018/12/13-14】
- 第39回 EST 創発セミナーin 姫路〔近畿〕～モビリティでよみがえる地方都市空間(仮)～【2019/2/26】

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 147 回)

●「第 8 回 地域の交通環境対策推進者養成研修会 in 福井」に参加して

【福井大学学術研究院工学系部門 准教授 川本義海】

国内でも有数の車社会である福井では、平成 23 年度に「クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議」を立ち上げ、行政、企業、県民が協働しハード・ソフト両面でこれまでさまざまな取り組みを進めてきました。北陸新幹線の金沢－敦賀開業はまだ先となりますが、福井駅前西口の再開発ビルとバスターミナル、路面電車の駅前広場への延伸や福井鉄道とえちぜん鉄道の田原町駅での相互乗り入れも平成 28 年 3 月に完成し、地域交通としてはいわゆる二次交通の充実がより一層期待される段階に入りました。これらの取り組みを総合的に評価いただき、平成 30 年 2 月には第 9 回 EST 交通環境大賞において大賞(環境大臣賞)を授与いただきましたことを契機に、9 月 3 日から 3 日間にわたり、ここ福井にて表題の研修会が行われました。研修の中日には台風 21 号が直撃し、その影響で当初の計画から変更を余儀なくされたグループも出ましたが、臨機応変な対応で無事研修を終えることができました。

研修会のテーマは「①新幹線延伸に伴う地域公共交通網再編を考える」「②まちなか空間のモビリティを考える」「③高齢社会のモビリティを考える」の 3 つで、いずれも二次交通を今後どのように充実させるかにつながる「問い」でした。私はこの中の「②まちなか空間のモビリティを考える」のメンバーとして、駅周辺まち歩きでの解説や WS コーディネータを務めました。我がメンバーが最終日に提案した内容ですが、「多様なモビリティが生きる快適な都市空間に向けて」と題して、買い物、散策、自転車通行に着目し、県外来街者のみならず地元住民でも回遊性が低く、まずは地元住民を市街地へ引き込む仕掛けと、子育て世代や県外来街者を中央公園方面へ誘導する仕掛けが必要との意見でまとまりました。またその具体化策として、駐車場を集約化し駅までのアクセスに自動運転カートを活用すること、駐車場とレンタサイクルのシームレス利用、公園内施設(飲食等)や現在福井で一押しの恐竜を生かした標示誘導や公園遊具の設置、また公園内自転車ステーションから路面電車の新駅設置まで、大きく夢が広がる提案となりました。

なお引き続き、駅周辺を中心市街地では民間主導による再開発が予定されています。これらの再開発施設と一体的に再生可能エネルギー及び回生エネルギーの活用事業が推進されれば、よりエコな都市空間とモビリティ環境が生まれ、その相乗効果で低公害化・低炭素化社会に大きく貢献していくことができると思います。我がグループの提案が今後、何らかの形で実現化されることを期待し首を長くして見守っていきたいと思います。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 147 回)

●「『交通まちづくり』によるすみやすさナンバーワンのまち高槻」をめざして

【高槻市産業環境部 環境保全課長 長谷川哲郎】

高槻市は大阪市と京都市のほぼ中間に位置する中核市で、市域面積約 105km²、夜間人口約 36 万人を有するベッドタウンです。環境面では、NO_x などの大気汚染は自動車等に対する様々な規制・誘導により、全国と同様に大きく改善されてきており、近年は環境基準をおおむね達成することができています。また、平成 13 年には「高槻市環境基本条例」を制定し、これを受けた第 2 次高槻市環境基本計画[改訂版](平成 29 年 3 月)では、基本方針の一つに「人と環境にやさしい交通ネットワークの構築」を位置づけるなど、積極的に交通面からも環境の取り組みを進めることとしています。

一方、都市計画面からは、平成 28 年 3 月に「高槻市総合交通戦略」を定め、コンパクトで持続可能なまちを支える交通を基本方針の一つとして位置づけ、各種の取り組みを進めているところです。これらを踏まえ、以下では、EST に寄与する本市の特徴的な取り組みを二つ紹介します。

(1) 駅を中心とした都市＋交通の機能向上

高槻市は JR 高槻駅(乗降客数約 13 万人/日)と阪急高槻市駅(同約 6 万人/日)が約 500m と適度に離れており、この両駅と駅間を中心に、5 つの商店街・2 つの百貨店・2 つの総合病院・各種のサービス機能が集積しています。本市では、このような駅周辺の高いポテンシャルを十二分に活用し、都市計画マスタープランに掲げる集約型都市づくりの推進(コンパクトシティ)、駅周辺の魅力向上に注力しています。

このうち、都市機能の充実としては、都市再生緊急整備地域への指定を受け、大学病院の建替や大規模工場跡地の再開発において、都市計画提案制度を活用しながら、より魅力的な機能集積を誘導しています。近年は、駅直近に国史跡を活かした安満遺跡公園の整備を進めており、都心部の緑空間の確保と防災力の向上、さらには市民が憩いをつづげる空間の充実を図っています。

また、交通機能の充実では、土地区画整理事業による歩行者デッキ・広幅員の歩行者空間の整備、開かずの踏切の橋上化、JR 駅南のデッキのリニューアル(EV/ESC の設置、屋根の設置、美装化)、駅間の無電柱化と歩道再整備、歩車混在区間での自動車一方通行化、自転車走行空間の明示、民間活力を活用した駐輪ラックの設置による路上駐輪の削減などを通じて、歩行者空間の魅力向上に努めています。また、鉄道事業者による JR 高槻駅のホーム拡充(混雑緩和のためのホームの新設)、ホーム柵の設置、駅構内のリニューアルなど、公共交通の安全性の向上の取り組みも促進しています。

(2)市営バスを活かしたまちづくり

高槻市は、全国的に減少傾向にある市営バスを有しており、平成 30 年度には開業 65 周年を迎えます。本市では高度経済成長期に北部丘陵や南部平野の開発により人口が急増しましたが、市営バスがこれらの地域から駅までの輸送を担うことで、通勤者の駅アクセスを便利なものとしてきました。近年はベッドタウンでも高齢化が進みつつありますが、福祉部局による高齢者無料乗車証(70 歳以上)により、高齢者のモビリティの確保を図っています。この施策は、このほかにも、高齢者の外出の機会づくりとそれによる健康づくり、さらには高齢者の来街による地域の活性化など、多方面にわたる有形・無形の効果があると考えられます。

その他、市営バスでは、環境定期券・妊婦特別運賃制度(こうのとりパス)・乗継割引などの運賃割引による利用者負担の軽減、駅周辺の出発時刻案内モニターやバスロケーションシステムの導入などによるバス利用環境の改善、ベビーカー利用者へのバスの乗り方教室や転入者への市営バス利用ガイドの配布などによるバス利用意識の醸成に努めています。さらに、関係部局間の連携により、都市基盤整備部局が駅前広場の改修や新規バス路線における道路改修を適宜行うなど、市を挙げて、市民の重要な移動手段としてのバスの魅力向上に努めています。

史跡今城塚古墳や大阪府の名勝摂津峡など、高槻には様々な自然・歴史・まちなみがあります。ぜひとも観光を兼ねてお越しいただき、駅周辺のまちづくりや市営バスを体感いただければ幸いです。

3. ニュース／トピック

●第10回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！【EST 普及推進委員会】

EST 普及推進委員会及びエコモ財団では、地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰する EST 交通環境大賞の応募を受け付けています。以下のウェブページをご覧ください、全国各地で交通環境対策に取り組まれている自治体、企業、市民団体等の皆様が応募されることを期待しています。

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2018.html>

●第11回アジア EST 地域フォーラムの結果について【環境省】

環境省は国際連合地域開発センター（UNCRD）等の共催で、アジア地域における環境的に持続可能な交通（Environmentally Sustainable Transport（EST））を目指し、ハイレベルによる政策対話を推進するため、10月3日（水）～5日（金）に、モンゴル国・ウランバートルにおいて、「第11回アジア EST 地域フォーラム」を開催しました。

第11回フォーラムでは、「持続可能な都市計画と開発～ESTの役割」を主なテーマに、各国の EST に関する政策の共有や幅広い意見交換とともに、今後のアジア EST 地域フォーラムの方向性について議論が行われ、今後も継続して EST を推進していくことが確認されました。

<http://www.env.go.jp/press/106058.html>

●エコ通勤メールマガジンのバックナンバーを公開【エコ通勤優良事業所認証制度事務局】

エコ通勤優良事業所認証制度事務局（国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課及びエコモ財団）は、「エコ通勤優良事業所認証制度」の認証登録事業所を対象に、エコ通勤に関する情報を提供するため、7月から「エコ通勤メールマガジン」を発行しています。このたび、バックナンバーを一般公開しました。

<http://www.ecomo.or.jp/environment/ecocommuters/mailmagazine.html>

●自治体向けのエコ通勤啓発リーフレットを公開【エコ通勤優良事業所認証制度事務局】

エコ通勤優良事業所認証制度事務局（国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課及びエコモ財団）は、このたび、自治体向けのエコ通勤啓発リーフレットを作成しました。自治体施策としてのエコ通勤の取組の実施及び地域におけるエコ通勤優良事業所認証制度の PR の促進への取組の一助としての活用を想定しておりますので、是非ご覧ください。

<http://www.mlit.go.jp/common/001257412.pdf>

●エコレールマークの認定商品として6件、認定企業として4社を新たに認定することが決定【国土交通省】

9月20日（木）に第36回「エコレールマーク運営・審査委員会」が開催され、エコレールマークの認定商品として6件、認定企業として4社を新たに認定することが決定されました。

エコレールマーク制度は、地球環境に優しい鉄道貨物輸送を一定以上利用している商品又は企業に対して、「エコレールマーク」の認定を行い、マークの表示によって消費者に判断基準を提供する制度です。「エコレールマーク」の表示された商品等を通じて、流通過程において企業が地球環境問題に貢献していることを消費者に意識してもらい、企業の鉄道貨物輸送へのモーダルシフトを促進することを目的としています。

http://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo05_hh_000086.html

●新しいモビリティサービスの構築に向けた共同出資会社を設立【ソフトバンク、トヨタ自動車】

ソフトバンク株式会社とトヨタ自動車株式会社は、新しいモビリティサービスの構築に向けて戦略的提携に合意し、新会社「MONET Technologies(モネ テクノロジーズ)株式会社」を設立し、2018年度内をめぐりに共同事業を開始します。MONETは、車や人の移動などに関するさまざまなデータを活用することによって、需要と供給を最適化し、移動における社会課題の解決や新たな価値創造を可能にすることを目指します。

まずは、利用者の需要に合わせてジャスト・イン・タイムに配車が行える「地域連携型オンデマンド交通」「企業向けシャトルサービス」などを、全国の自治体や企業向けに展開していく予定です。

https://newsroom.toyota.co.jp/jp/corporate/24747176.html?padid=tjptop_info_topics_contents

●沿線の地域交通課題解決に向けた新しい交通システム 10月29日(月)から「電動小型低速車」の実証実験を開始【京浜急行電鉄】

京浜急行電鉄株式会社(本社:東京都港区、社長:原田 一之、以下 京急電鉄)、横浜国立大学(所在:神奈川県横浜市、学長:長谷部 勇一)および横浜市は、10月29日(月)から横浜市金沢区富岡西エリアにおいて、地域交通課題解決を目的とした「電動小型低速車」の実証実験を開始いたします。

京急沿線の横浜市金沢区富岡西エリアは、急勾配な坂道が多く、バス停や鉄道駅へのアクセスが容易でない地域があるなど、交通課題を抱えた地域が存在します。そこで本実証実験では、「電動小型低速車」の“登坂力に優れている”・“小型である”、といった特徴を活かし、急勾配な坂の移動を補助するルート(富岡第1地区ルート)と、地形的制約により、既存のバス路線が運行できないルートを走行し、公共交通機関までの補完的機能を担うルート(富岡第3地区ルート)の2ルートを設定し、定時定路線の循環運行を行い、地域交通課題解決を目指してまいります。

http://www.keikyu.co.jp/company/news/2018/20181017HP_18126KK.html

●水素活用による、鉄道と自動車のモビリティ連携の検討を開始【トヨタ自動車、JR 東日本】

トヨタ自動車株式会社と東日本旅客鉄道株式会社は、地球温暖化問題やエネルギーの多様化などに対応した持続可能な低炭素社会の実現に向け、水素を活用した鉄道と自動車のモビリティ連携を軸とした包括的な業務連携の基本合意を締結しました。

当面の具体的な取り組みとしては、鉄道に接続する地域交通へのFCV・FCバスの導入などが挙げられます。

http://www.jreast.co.jp/press/2018/20180929_1.pdf

●心と体を元気にするクルマづくりを目指した、電動化とコネクティビティの技術戦略を公表【マツダ】

マツダ株式会社は、「走る喜び」を進化させるとともに、人間らしい心豊かな「生きる喜び」を実感できるカーライフの実現を目指した電動化とコネクティビティの技術戦略を公表しました。

電動化技術に関しては、内燃機関を磨き上げながら、小型軽量の電動化技術を展開することで、CO₂ 排出量削減を目指します。一方、クリーンな発電で電力をまかなえる地域や、大気汚染抑制のために自動車に関する規制のある地域に対しては、電気自動車も最適なソリューションとして導入していきます。

<http://www2.mazda.com/ja/publicity/release/2018/201810/181002a.html>

●電気自動車を活用した「V2G 実証プロジェクト」を開始【東北電力、三井物産、三菱地所】

東北電力株式会社は、日産自動車株式会社などと共同で、電気自動車の蓄電池を活用し、蓄電池を電力系統に接続して充放電する技術（V2G: Vehicle to Grid）の構築に向けて、実証プロジェクトに取り組みます。

将来的に普及拡大が見込まれている電気自動車は、移動手段としての利用だけでなく、電気を貯めて取り出せる蓄電池としての利用も始まっています。本プロジェクトでは、この電気自動車の蓄電池機能に着目し、自然条件により出力が変動する再生可能エネルギーのさらなる導入拡大に対応するため、電気自動車の電力需給バランス調整機能としての実現可能性を検証します。

http://www.tohoku-epco.co.jp/news/normal/1198372_1049.html

●コンテナ増強による紙製品輸送のモーダルシフト推進【北越コーポレーション】

製紙メーカーである北越コーポレーション株式会社は、紙製品の輸送について 20 フィートコンテナ 45 基を自社で製作・保有し、トラック輸送から環境負荷の小さい貨物輸送へ切り替えることにより、モーダルシフトをさらに推進させていきます。

http://www.hokuetsucorp.com/pdf/OSIRASE/20180928_release01.pdf

●燃料電池トラックの技術開発・貨物輸送の実証【福岡市、東京アールアンドデー、ピユーズ、天神地区共同輸送】

福岡市は、株式会社東京アールアンドデーなどと「燃料電池トラックの技術開発・貨物輸送の実証」を行っております。天神地区の貨物輸送の実証を行うことにより、物流分野で CO₂ 削減効果が見込まれる燃料電池トラックの開発・普及を目指します。

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/65016/1/300911torakkusoukousikiten.pdf?20180927095939>

●大気汚染防止のプロジェクトに 1 億 3,000 万ユーロを拠出【ドイツ】

ドイツ政府は、2020 年までに 5 つのモデル都市における大気汚染防止プロジェクトに約 1 億 3,000 万ユーロの資金を拠出します。ボンなどの 5 つのモデル都市は、公共交通サービスを向上させ、二酸化窒素汚染を減らすためのプロジェクトを実施します。例えば、公共交通機関の新設や増便、交通管制の改善、または自動車道の新設などです。

<https://www.bmvi.de/SharedDocs/DE/Pressemitteilungen/2018/060-foerderung-saubere-luft-moderner-oepnv.html>

●1 人乗りマイカー通勤が 1 割減少し都心回帰が実現【シアトル市】

米国シアトル市では、キング郡交通局が提供するモバイルアプリ「TransitGo」を使えば、チケットレスかつキャッシュレスで、都市圏内のどの公共交通もスマホ一つで利用可能です。「commute seattle」とシアトル交通省が発表した 2017 年の都心部の通勤交通に関する調査報告書（2017 Center City Commuter Mode Split Survey – Survey Results）によると、2010 年から 2017 年の 7 年間で、都心部の従業者数が 20 万 2000 人から 26 万 2000 人と 3 割も増加した一方で、1 人乗りのマイカー通勤の割合が 35.2%から 25.4%へと、約 1 割も減少しました。2017 年の都心部への通勤時間帯の利用交通手段の構成では、マイカー以外の利用が 75%を占め、そのうち、ライトレールやバスなどの公共交通が 48%、カープールやバンプールなどを含む相乗り交通が 10%、自転車が 3%となっています。マイカーから公共交通やライドシェア、自転車に転換した可能性が高く、これほどのマイカー通勤の減少に成功した都市は米国だけでなく世界的にも珍しいため、注目を集めています。

<https://commuteseattle.com/Modesplit/>

4. イベント情報

●第 38 回 EST 創発セミナーin 京都〔近畿〕

日時:2018 年 11 月 22 日(木)13:30～16:40

場所:みやづ歴史の館 2 階「文化ホール」

主催:京都府、国土交通省近畿運輸局、EST 普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu57.html>

●「エンジョイ エコドライブ おかやま」～新型試乗車でドイツの森までエコドライブ体験～

日時:平成 30 年 10 月 27 日(土)9:00～16:30(予定)

場所:岡山運輸支局～「ドイツの森」(往復)

主催:日本自動車販売協会連合会岡山県支部、岡山県軽自動車協会

<http://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/release/18083101.pdf>

●くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2018

日時:2018 年 10 月 27 日(土)～28 日(日)

場所:東洋大学 白山キャンパス

主催:くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会

<https://zenkokuforum.jimdo.com/>

●平成 30 年度交通環境セミナー

日時:2018 年 11 月 9 日(金)13:30～16:00(予定)

場所:かなつくホール

主催:神奈川県トラック協会、かながわエコドライブ推進協議会

<https://www.kta.or.jp/pub/koutuukannkyousemina-.pdf>

●地域公共交通シンポジウム in 徳島 ～みんなでつくる持続可能な公共交通～

日時:2018 年 11 月 12 日(月)13:00～16:30

場所:小松島市 ミリカホール

主催:国土交通省四国運輸局

<http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/content/000038478.pdf>

●平成 30 年度エコドライブシンポジウム

日時:2018 年 11 月 28 日(水)13:30～16:20

場所:千代田区立内幸町ホール

主催:エコドライブ普及推進協議会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

http://www.ecodrive.jp/data/ecodrive_sympo18.pdf

●エコプロダクツ 2018

日時:2018年12月6日(木)～8日(土)

場所:東京ビッグサイト 東ホール

主催:一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/2018/>

●第16回 ITS シンポジウム 2018

日時:2018年12月13日(木)～14日(金)

場所:同志社大学 今出川校地室町キャンパス 寒梅館

主催:同志社大学、特定非営利活動法人 ITS Japan

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/16th2018/

●第39回 EST 創発セミナーin 姫路〔近畿〕～モビリティでよみがえる地方都市空間(仮)～

日時:2019年2月26日(火)13:30～16:50

場所:姫路キャスパホール

主催(予定):姫路市、国土交通省近畿運輸局、EST 普及推進委員会、エコモ財団

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecommo.or.jp (担当: 熊井、中道)

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>